

2026年度 八戸学院大学短期大学部

幼児保育学科・介護福祉学科 一般選抜Ⅰ期

国語

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで問題冊子を開かないこと。
2. 筆記用具は黒色の鉛筆またはシャープペンシルを使用すること。
3. 問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁に気付いたときは、手を挙げて監督者に知らせること。
4. 問題冊子の余白等は適宜利用してよい。
5. 問題冊子は持ち帰ってよい。

【I】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

人間は、あるものについて便利だと思えば、その普及によって社会全体にどのような影響が及ぶのかを考えることなく、自分の都合だけで受け入れてしまう。

たとえばクレジットカードを考えてみよう。最初のうち、日本人はなかなか受け入れなかった。それは、取引の相手を完全に信用できないと思われたからである。

電話や携帯電話も同じだ。普及しはじめた頃は、電話が中継局で盗聴されるかもしれないとか、携帯電話の電波が途中でだれかに受け取られて盗聴されないかなどと心配した人も多いだろう。しかし、電話や携帯電話をみんなが使い出し、それがないと社会生活も①イトナめなようになると、盗聴されてプライバシーが侵されるという②ケネンはすっかり忘れて、逆に使わない人を変な人だと思うようになる。

このように、クレジットカードや電話や携帯電話など、人をつなぐ新しいものが世の中に出ると、はじめのうちは信用できずに使うことを躊躇するが、多くの人が使い出すと、自然に自分の中に信用が生まれ、その危険性を忘れて使い出すようになるのである。

1ここに人間社会のおもしろさがあると思う。みんなが使い出して、それが人と人を何らかの形でつなぐものであれば、自分も使ってしまう。その結果人間社会にどのような影響が及ぶかについては、そのときは考えることはできず、のちにさまざまな③ゲンショウが生じてから、改めて考えるようになる。

インターネットは、人間社会に非常に大きな影響を与え、いろいろな変革をもたらした。人間に新たな世界を与え、新たな可能性も引き出したが、同時に多くのIももたらしている。しかし、そういったものを受け入れて社会そのものが変化してしまうと、簡単に後もどききなくなる。

人間は、生物としては、短い時間で進化することはできない。しかし、新しい技術をどんどん受け入れていくそのさまは、人間が社会全体としてIIしているように見える。

ロボットは、パソコンにセンサやアクチュエータが^{注1}ひつついたようなものである。ロボットを制御しているのはパソコンそのものだからである。そして、世の中でさまざまなセンサが使われ、自動ドアや動く歩道や自動車が受け入れられている現在、その延長線上で、ロボットが

徐々に人間社会に④シントウし、それを変革しながら、人間の生活になくなくてはならないものになるのは、それほど遠い将来ではない。もしかしたら、我々はすでにそのような時代にいるのかもしれない。

むろん、ここで言うロボットは、工場の中で働くロボットではなく、人間と関わり、ロボットの向こうに、電話や携帯電話と同様に人間を連想させるものである。人と何らかの方法で関わるロボットは、パソコン同様に、知らず知らずのうちに人に受け入れられ、気がついたときには世の中を大きく変えてしまう十分な可能性を持っている。

こういったことは、電話やパソコンの普及から⑤ルイスイすれば、比較的簡単に気がつくはずだが、それでも、2ロボットだけは特別な扱いを受ける。「ロボットは人間を支配しますか？」という疑問を持たれるのである。その理由は、やはり、ロボットが人間そのものを映し出す鏡であるからで、そのロボットをいわば新たな人種のようなものとして感じてしまうからであろう。逆に言えば、「ロボットは人間を支配しますか？」という質問をする人は、しない人よりも、強くロボットの可能性を実感しているのかもしれない。

ただ、この情報化社会・ロボット化社会に対するケネンがまったくないわけではない。人と人をつなぐ情報機器が発達してくると、かえって人は人のことをあまり考えなくなるという、反対の側面も出てくる可能性がある。

電話のない時代には、手紙をやりとりした。手紙のやりとりには時間がかかるので、その分、いろいろと相手のことを思い、想像して、手紙を書いた。それが電話ですぐにつながることができる、相手のことを深く考える前に、話ができてしまう。携帯電話にいたっては、気になったときにすぐ相手とつながることができるため、相手のことを考える時間はほとんどなくなった。

すなわち、技術の発展に伴い、人間は他の人間のことを深く想像することなく、単なる情報交換ばかりをするようになってきている。言い換えれば、人間は、ずいぶんと身勝手になって、単に通信するだけのような機械になりつつある気さえする。

ゆえに、新しい技術や情報機器を受け入れるためには、3人間そのものがより賢くならなければならない。哲学を持たなければならないと思う。

ロボットを作ることは、人間とは何かを知ることだ。先に、「人間はすべての能力を機械に置き換えながら、その後に何が残るかを見ようとしている。」という話をした。これはまさに哲学であるが、そのような哲学を持たずに、単に便利だからその道具を使うということをするれば、人間は逆に機械のようになっていくと思う。技術が進歩すればするほど、人間そのものに対する深い興味と洞察が必要になってくる。

(注1) アクチュエータ：機械・装置などで、入力したエネルギーを物理的な運動に変換する機械要素。電気モーターや油圧シリンダなど。
(注2) 先に…話をした。…問題として取り上げた本文よりも前の章で、筆者はこのようなことを述べている。

(石黒浩『ロボットとは何か―人の心を映す鏡』より)

問一 傍線部①～⑤のカタカナを漢字で書きなさい。

問二 傍線部1「人間社会のおもしろさ」とは、どのような点を指していたものか。その説明として最も適当なものを、次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

ア 人をつなぐ新しいものにははじめは警戒するが、多くの人が使い始めるといつの間にか信用するようになり受け入れてしまう点。
イ 人をつなぐ新しいものが次々と生み出されても、なかなか信用することができずに、過剰な心配をして使うことをためらってしまう点。
ウ 人をつなぐ新しいものがいったん世の中に出てしまうと、使うのが当たり前になり、それなしには社会生活が不可能になってしまう点。
エ 人をつなぐ新しいものが普及すると、それが人間社会に与えるかもしれない影響や危険性をまったくふりかえらなくなってしまう点。

問三

I と II に入る組合せとして最も適当なものを、次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

ア AⅡ利点 BⅡ協力 イ AⅡ発展 BⅡ退化 ウ AⅡ問題 BⅡ進化 エ AⅡ可能性 BⅡ通信

問四 傍線部2「ロボットだけは特別な扱いを受ける。」とあるが、これはどういうことか。その説明として最も適当なものを、次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

- ア ロボットは他の機器に比べ利便性が高く、社会に大きく貢献し得るものとして優遇されるということ。
- イ ロボットは他の機器よりも人に近く、ある種の人格をもつようなものとして警戒されるということ。
- ウ ロボットは他の機器ほど普及はせず、社会への影響もあまりないものとして軽視されるということ。
- エ ロボットは他の機器と同様に広く受け入れられ、社会を変えるものとして重要視されるということ。

問五 傍線部3「人間そのものがより賢くならなければならない。」とあるが、「より賢くな(る)」の説明として最も適当なものを、次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

- ア 道具を通信のみに使用するのではなく、より広く人間社会に役立てる方法を工夫する。
- イ やりとりする相手を気遣い、相手の置かれた状況をより深く想像する力を身につける。
- ウ 新しいものだけにとらわれることなく、古いものもより大切にしようとする心をもつ。
- エ 人間に対する興味を失わずに、人間そのものをよりよく理解しようとする姿勢をもつ。

問六 「ロボット化社会」に対するあなたの考えを、二百字以内で書きなさい。

【Ⅱ】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

（大地震が起き、図書館司書の黎子^{れいこ}は、職員として利用者たちの避難誘導などを行っていた。黎子は、利用者の須藤海太郎と一緒に、一人暮らしのおばあさんに話しかけた。）

「不安でいらっしやるでしょう。どうぞ、ここにいてください。場合によっては、わたしがお送りしますよ。」

おばあさんは黎子に向かってにこっと笑い、安心したのか、その場にへたりこんでしまった。黎子はなんとか立ち上がらせ、おばあさんを二階の和室へ連れて行くことにする。そのとき海太郎と目が合った。

「あの、須藤さん、でしたね。ここにしばらくいらっしやいますか。」

「いえ、帰ります。」

「くれぐれもお気をつけて。」

「ええ、あなたも。」

あなたも、という言葉が、そのあなたである黎子のなかに A、波紋を描きながら広がっていく。親雄^{注1}はどうしているだろうと、黎子は思った。同時に、おばあさんの肩を強く①タきよせた。

「大きな地震でしたね。」

「ええ。」

「ほんとにそう。あたしの生きてるうちに、大地震がくるような気がしていたけれど、やっぱりね。②ヒガイの全貌はこれからですよ。」

さきほどから、誰もが同じようなことを繰り返して話していた。しかしその繰り返しや確認が、いや、それだけが、人の気持ちをなだめていくようだ。

黎子は③タナにぎっしりと詰まっている2たぐさんの本を、むなしい気持ちで思い出した。重くて落ちれば凶器にもなる本。そのなかには無数の言葉がつまっているけれど、今すぐ人をなぐさめたり、あたためたりする言葉はどこにあるのだろう。

「わたし、関東大震災のことを母や祖母から幾度も聞いて育ったのですよ。こんなおばあさんになってから、こんな地震に出会うなんてね。家

のなかには、本が多いから、それがめちやくちやになっていないかと、実は心配で。しばらくいて、心が静まったら、家へ戻るわ。それまでここにいて、いいかしら？いいわよね？」

今なお不安がるおばあさんに、

「ええ、ええ、だいじようぶ、だいじようぶよ。」

黎子もまた、家族のような④クチヨウになって、同じことを繰り返すばかりである。だが、だいじようぶという、普段ならいい加減で曖昧にも取れる言葉を、今ほど、的確に使ったことはないと黎子は感じていた。

「ありがたいわ。息子たちはみな、日本にいてね。夫とも死別したから、あたし、ほんとうに一人なの。」

その日、黎子はおばあさんを、結局家まで送っていくことになった。おばあさんの手提げ袋のなかには、⑤カし出し限度いっぱいの五冊が入っていて、かなりの重さになっていたから、黎子は持ってさしあげた。

何を借りたのだろう。ちらつと見ると、小説やら料理の本やら、海外旅行の本が入っていて、そのなかの一冊は『フランス／パリ案内』だった。

本など何の役に立つか。そして本の言葉など、本当に人のなぐさめになるのかと、さきほどはむなしくなった黎子だったが、今度はその役立たずに見える本が、おばあさんのそばに確にあるという事実がうれしいことに思われてくる。内容はもとより、そこにそれがあるというだけで、人を支えるものがある。人間にとつての人間がそうだが、本もそういうものかもしれない。だからこそ本には、物理的な重さがあるのかもしれない。パリについて書かれた本が、震災後の人間を支えることなどないとな誰がいったい断言できるだろう。③黎子は司書になったことを、ほんの少しだけ誇りに思った。

(注1) 親雄…黎子の夫。

(小池昌代『厩橋』より)

問一 傍線部①～⑤のカタカナを漢字で書きなさい。

問二 Aに入るものとして最も適当なものを、次のア～ウの中から選び、記号で答えなさい。

- ア すたとんと落ち イ 受け入れがたいものとして感じられ ウ おばあさんへの哀れみの気持ちを呼び起こし

問三 傍線部2「たくさん」の本を、むなしい気持ちで思い出した。」とあるが、このときの黎子には本がどのように思えたか。文中から四字で抜き出して答えなさい。

問四 傍線部3「黎子は司書になったことを、ほんの少しだけ誇りに思った。」とあるが、黎子がこのように思った理由を四十字以内で答えなさい。

【Ⅲ】次の文の傍線部が慣用句となるように、（ ）にあてはまる言葉として最も適当なものをあとのア～エからそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

① 友達の思いがけない言葉に（ ）を疑う。

ア 鼻 イ 口 ウ 舌 エ 耳

② 彼女の語学力の高さには、周囲が（ ）。

ア 目を光らす イ 舌を巻く ウ あごを出す エ 腹をくくる

③ 友好関係に（ ）を差す。

ア 水 イ 油 ウ 針 エ 傘

【Ⅳ】次の四字熟語の傍線部のカタカナを漢字に改めなさい。（解答欄には二字だけ記入）

① 古い制度は今では有名ムジツで実際は用をなしていない。

② いきなりの話に、皆は茫然ジシツとなって立ち尽くした。

③ キソウ天外な物語に夢中になる。

〈問題終了〉